

しょうでんじ 正伝寺

1268年に烏丸今出川で創建後、1282年に現在地へ移転。伏見城の遺構であった本堂(重要文化財)では、鳥居元忠らが自刃(1600)した伏見城廊下を移築した「血天井」が見られます。本堂前には比叡山を借景とし、「獅子の尻渡し」を表現した小堀遠州作の庭があります。



血天井

正伝寺庭園(市指定名勝)

西賀茂上賀茂

山城国一ノ宮と称された上賀茂神社(賀茂別雷神社)周辺は明神川沿いに社家が並び、伝統的建造物群保存地区に指定され、歴史の風情が漂う地域です。天然記念物に指定される大田ノ沢カキツバタ群落や深泥池生物群集もあり、松ヶ崎・西山、東山や疎水の沿道は心ませる散歩道です。また、府立植物園や賀茂川の堤防は市民の憩いの場となっています。西賀茂から鷹ヶ峰にかけても、歴史的風土保存区域で歴史ある寺社も多く、見所に事欠きません。また、この周辺は平安宮・京へ供給していた瓦窯などの遺跡も集中しています。さらに史跡の御土居も所々に残り、古代から近世の遺跡や史跡を見ながらコースを歩けば、周りの風景もまた違ったものになるでしょう。

上賀茂神社 楼門(重要文化財)

じんこういん 神光院
東寺・仁和寺と並ぶ「京都三弘法」として、「厄除大師」とも称される寺。境内には、歌人・大田垣運月(おたがきれんげつ)が隠棲した茶室(運月庵)があります。



運月庵

たかがみね 鷹ヶ峰文化村

鷹ヶ峰は、江戸時代に本阿弥光悦(ほんあみこうえつ)とその一族、光悦を慕う芸術家や豪商らの移住により芸術・文化の一大拠点となった地です。文芸人ゆかりの寺院が多く並びます。

じょうしょうじ 常照寺
江戸時代に宗徳の学問所として創建。「吉野の赤門」や茶席の丸窓「吉野窓」など、江戸時代初期の名妓・二代目吉野太夫(よしのたけう)ゆかりのお寺です。



吉野の赤門

げんこうあん 源光庵
1346年創建。唐風の山門や、本堂には丸窓「悟りの窓」と角窓「迷いの窓」、伏見城の戦いの遺構「血天井」などが見られます。



「悟りの窓」と「迷いの窓」

けんこういん 遣迎院
1201年創建。発遣(ほっけん)の釈迦と来迎(らいこう)の阿弥陀の二尊(ともに重要文化財)を本尊とする寺です。



えんじょうじ 圓成寺
1630年創建。妙見菩薩像に由来して岩戸妙見宮と称されます。本堂背後の妙見堂は古墳の石室に似た石造りのお堂です。



こうえつじ 光悦寺
江戸時代に本阿弥光悦が設けた祖先供養の位牌堂を起源とする寺。参道を進むと、七棟の茶室や光悦垣などがあります。



光悦垣



史跡 御土居跡
御土居は、防壁や堤防を目的に、豊臣秀吉が京の周囲に築造した22.5kmに及び土壁で、国の史跡に指定された全9箇所のうち4箇所が本ルートで見られます。史跡指定はされていませんが、しょうざんリゾート京都の東側と大宮交通公園内にも御土居が残っています。

- 1 北区紫竹上長目町・上堀川町**
北東の角部。鴨川西岸に位置し、洪水を防ぐ堤防の役割もしていました。
- 2 北区鷹峯旧土居町**
御土居の傾斜地が史跡公園として整備されています。御土居の犬走りをおくことができます。
- 3 北区鷹峯旧土居町**
北西の角部。ここは御土居七〇の一つ、長坂口にあたります。(見学の際は向かいの光悦堂さんに鍵を借り、柵内へ入場可)
- 4 北区大宮土居町**
約250mもの長さをもつ巨大な土壁跡。土壁と堀が、現存する御土居の中で最も良く残っています。

かもわけいかづちじんじや かみがもじんじや 世界遺産 賀茂別雷神社(上賀茂神社)

創建は、社伝によれば天武天皇の時、賀茂氏により現在地に社殿が営まれ、その子孫が社家として歴代奉仕しています。平安京遷都以後、王城の守護神として行幸・奉幣を受け、794年桓武天皇が行幸し、正二位勲一等の神階が贈られました。また未婚の皇女・女王が神社に奉仕する斎院が置かれ、810年、嵯峨天皇皇女・有智子(うちこ)内親王が初代斎王となりました。社領も多く、平安時代末期には二十年に一度の式年遷宮制が布かれ、山城国一ノ宮となりました。

重要文化財の細殿(ほそどの)前には、御神体の神山(こうやま)を表す立砂があり、他にも本殿(国宝)や片岡橋など多数の重要文化財、御手洗川(みたらしがわ)などの見所があります。



細殿前立砂 御手洗川

上賀茂神社ゆかりの神社

- 1 藤木社**
上賀茂神社の末社。明神川の守護神として信仰され、樹齢500年といわれるクスノキの下に祀られています。
- 2 大田神社**
上賀茂神社の摂社。寿命長久や縁結びなどの神として信仰されています。5月に咲く大田ノ沢カキツバタ群落(国指定天然記念物)が見られます。
- 3 久我神社**
上賀茂神社の摂社。境内は市の史跡に指定され、賀茂別雷神の祖父・賀茂健角身命(かもたけつみのみこと)を祀ります。

ゆうせんじ 涌泉寺ゆかりの寺

- 1 松ヶ崎疏水**
992年、天台宗の松崎寺として創建され、1307年、日蓮宗となり、寺名も妙泉寺と改められました。松ヶ崎小學校の調査で妙泉寺の石垣が発見され、石垣の一部は校内北端に移築・保存されています。(見学の際は許可要)
- 2 涌泉寺**
1918年、本涌寺と妙泉寺が合併し、涌と泉の一字を取って涌泉寺としました。8月15、16日には松ヶ崎題目踊り(市登録無形民俗文化財)が行われます。
- 3 妙円寺(松ヶ崎大黒天)**
1616年、本涌寺の僧日英が隠居所として創建。大黒天尊は「松ヶ崎大黒天」として信仰を集め、「都七福神」の一つとして慕われ六十日に一回の甲子(きのえね)祭で開帳されています。

- 1 松ヶ崎疏水道**
桜並木の内側に疎水が流れる道。春の桜や秋の紅葉など四季ごとの風景が楽しめます。疎水と泉川の十字交差点も見所です。
- 2 京都府立植物園**
1924年に開園した日本初の公立植物園。大温室や「日本の森」、バラ園などがあり、1万種以上の植物が見られます。
- 3 半木の道**
植物園の西側、賀茂川東土手の散策路。京都府立植物園の半木の森にある半木神社が名前の由来です。春は紅じだれ桜が美しい桜の名所です。

西賀茂 上賀茂



～文化財と遺跡を歩く～

京都歴史散策マップ



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/
入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
市バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ



西賀茂 上賀茂周辺の発掘調査

西賀茂 上賀茂は京都市の北東にあたり、比叡山や北山を背景にする景勝の地でもあります。上賀茂地区は賀茂川と高野川に挟まれ、深泥池の西側から南側一帯にかけて形成された鴨川の扇状地上に弥生時代後期から古墳時代にかけての集落跡である植物園北遺跡が広がっています。これまでの発掘・立会調査により住居跡が多数発見され、大集落であったことが明らかになっています。岩倉地域には深泥池北西の丘陵に古墳群が点在しており、円通寺の裏には本山古墳群が広がっています。近年、1号墳の発掘調査が行われ、古墳時代後期の円墳で内部主体が横穴式石室であることが明らかになりました。深泥池北側の深泥池瓦窯跡の発掘調査では奈良時代前期の瓦窯跡や炭焼窯も発見されています。中世には、上賀茂神社の社家町や松ヶ崎集落などが形成され、寺社も多数建てられています。松ヶ崎小学校内の発掘調査で中世の妙泉寺跡の石垣・土塁が発見されました。西賀茂地区には賀茂川西岸の西賀茂一帯に飛鳥時代から平安時代にかけての須恵器や瓦の窯跡が多くみられ、一括して西賀茂窯跡群と総称されています。各窯跡の発掘調査がこれまでに行列、窯の構造や状況が明らかになってきています。

①～⑤ 植物園北遺跡

1974年、地下鉄烏丸線工事に先立ち、植物園北側一帯で分布調査が行われ、平安時代の土器片などが採集され遺物散布地として「植物園北遺跡」と名付けられ登録されました。それから数年後の1979年に植物園の北側一帯で公共下水道工事に伴う立会調査で、弥生時代から古墳時代の竪穴住居跡が多数見つかりました。以後、上賀茂一帯がすべて調査対象地となり縄文時代晩期から室町時代の遺構が次々に発見され、その範囲は西が賀茂川、東が松ヶ崎通東側、北が上賀茂神社、南が京都府立大学の北部に至る東西約2キロ、南北約1キロに及んでいます。



空から見た植物園北遺跡



下水道工事の立会調査の様子



地下鉄烏丸線北進の調査風景



竪穴住居跡(古墳時代前期)



竪穴住居跡(古墳時代前期)



竪穴住居跡と出土土器(古墳時代前期)



発掘調査の様子と竪穴住居跡(奈良時代)

⑥ 本山古墳群

岩倉盆地西部の本山丘陵裾部に位置する古墳群で、現在までに古墳時代後期とみられる円墳42基が確認されていますが、本格的な調査はこれまで行われていませんでした。2012年5月に1号墳の調査が行われ、墳丘の大半が削平されていましたが、径約15mの円墳で、埋葬施設は残存する石積みから横穴式石室であることが明らかになりました。また、石室内からは須恵器とともに金環・銀環等の装飾品も出土しています。



発掘調査された古墳の様子



横穴式石室の石積み



出土した土器

⑦ 深泥池瓦窯跡(ケシ山窯跡)

1934年に故木村捷三郎氏が瓦窯跡1基を確認し、1984年の造成工事に伴う発掘調査で奈良時代前期の瓦窯跡2基と、それより以前の炭焼窯跡2基を発見しました。この瓦窯跡で生産された瓦は北白川廃寺に供給されていた。



瓦窯跡の様子

⑧ 松ヶ崎廃寺

正暦三年(992)に、源保光(ためみつ)が建立したとされる松ヶ崎寺(円明寺)は、当初、天台宗の寺院でしたが、鎌倉時代後期の徳治二年(1307)、日蓮宗に改宗し、寺号も妙泉寺と改められました。天文五年(1536)、比叡山宗徒の軍勢に焼かれて廃寺となり、その存在は長く文献上でしかわかりませんでした。1978・1993・2003年の松ヶ崎小学校の校庭での発掘調査で、焼き討ちで焼けた土や、石垣が見つかりました。また、下層で平安時代の御堂跡の礎石や庭園跡などが見つかり、妙泉寺と松ヶ崎寺の一端が明らかになりました。



妙泉寺の石垣跡



松ヶ崎寺の建物跡



松ヶ崎寺の池跡



2号窯跡 焚口からの窯体内の様子
(写真提供 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課)

⑨～⑫ 西賀茂瓦窯跡群

西賀茂一帯には白鳳期から平安時代の瓦の窯跡が広く分布しています。平安時代には宮に所属した瓦窯として、平安宮・京の造営のために大量の瓦を供給していました。当地では古くより瓦が出土することが知られていましたが、近年の発掘調査により、瓦生産の様子が少しずつ明らかになってきています。



台地上に見られる瓦窯跡と上段の工房跡



瓦を利用して構築された瓦窯跡の様子



天井部を取り外した瓦窯跡



出土した鳳凰文の陶尾

⑪ 角社瓦窯跡(平安時代前期)

窯跡は大将軍神社(角社)の周辺に造られた瓦窯群です。1970・71年の発掘調査で発見されました。東西2群に分かれて築窯されており、東群では3基、西群では4基確認されています。これらの窯跡は調査後、地中に保存されています。2011年に発掘調査が行われ1971年に発見された東群2号窯跡の一部と灰原の広がりが再確認されました。



発掘調査の様子



瓦窯跡の様子

⑫ 河上瓦窯跡(平安時代中期)

1979・1980年の発掘調査で、発見された瓦窯跡です。出土した軒平瓦に「河上」の銘が入っています。



瓦窯跡の一部

(写真提供 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課)



上賀茂 西賀茂で行われた発掘調査位置図

資料提供：財団法人京都市埋蔵文化財研究所